

62年間にわたってニーズに応え、優れた技術で産業界を支え続ける



代表取締役社長

中川 勝喜

株式会社 徳工

【本社】徳島県徳島市東沖洲 2-37
(マリニピア沖洲)
URL : <http://tokuko.co.jp>

— 御社の沿革からお聞かせ下さい。

創業者は現在の会長のお父様で、1956年の創業から数えて、今年で62年になります。産業機器等の販売商社としてスタートし、激動の時代を生き抜く中で、その業務内容も大きく変革していきました。計装工事や計器メンテナンス部門が自社で組織されたのもかなり以前になります。多くの協力会社による各種工事等、あらゆる場面でお客様の要望に応える会社へと成長してきました。取引先は大手企業が中心で、本社の他にも県内に4つの事業所を構えており、そのうち3つが取引先企業の敷地内にあるんですよ。

— 培ってこられた信頼の賜物ですね。

1956年の創業から62年にわたり、産業機器の販売・工事分野で産業界を支えてきた『徳工』。中でも計装工事や計器メンテナンス部門は自社で事業部を組織し、取引先から高い評価を得ている。そんな同社を、本日はタレントの板東英二氏が訪問。6代目の中川社長にお話を伺った。

中川社長ご自身はどのような経緯をたどってこられたのでしょうか。

最初は地元である阿南の営業所に配属されましたが、その後は本社勤務となったのです。入社した当時はバブルの前でしたが景気が良く、工場がどんどんと建設されていたころ。営業などしなくても、当たり前のように仕事が入ってくるという状況でしたね。そんな中で、私自身も社員の一人として多くの現場を経験し、若くして仕事の最前線に立たせていただきました。今では社員を見守る立場に変わりましたが、常に変わり続けるという情熱は今も持ち続けております。

— 現場の叩き上げとして、厳しい環境の中で多様な経験を積んでこられたのですね。昔と比べて、今はものづくりの世界も変わってきたのではありませんか。

そうですね。国内のものづくりが海外に流れていき、厳しい状況ではありますね。それでも何とか乗り越えていこうと努力を重ねているところです。「築き上げた信用・信頼は、最高の営業」という言葉を社員と共有しながら、新たな挑戦を続けています。

— 創業から62年ということですが、それだけ長く続いた要因はどこにあるとお考えですか。

昔は取引先も中小から大手まで幅広かったのですが、淘汰される企業も多く、その中で大手企業が残りました。そこに集中して商売ができたことが大きかったのだと思います。そして、特定の業務にしがみつくことなく、常にお客様のニーズに合わせて柔軟に変化してきたからこそ、今の『徳工』があるのではないかと思います。最近、求人活動を手掛ける中で、「何をしている会社か」と考えることがあります。その疑問に対する答えは、「この会社の中で自分は何ができるのか」という視点に立った時に見えてくると思っていますし、一言で説明できないところに、『徳工』の魅力が隠されているようにも

思いますね。

— 経営者という立場になられて、大きく変わったところはありますか。

従業員として長年勤務してきましたが、経営者となるとまた別の大変なことなどが多いですね。時には心が折れそうになることもあります。それでも頑張れるのは、会社に恩返しをしたいという思いがあるから。それが日々の原動力にもなっていますね。

— では最後に、今後の展望を。

もともと個人の性格ってバラバラですよ。組織をまとめるって大変です。就任して6年経ちますが、やっと私が目指している「役員と社員が一丸となって目標に向かっていける組織」ができつつあるので、いよいよこれからというところですね。その中で今後何が必要とされるのかを見極め、事業を拡大すること。違う分野へのチャレンジも含めて行動し、一層の飛躍を目指したいです。

(2018年4月取材)



厳しい景況の中、事業を牽引していくのは大変なことでしょう。プレッシャーも大きいと思いますが、私も陰ながら応援させていただきます！



板東 英二